

折に触れ 四字熟語

NO. 41 『死生有命』 しせい ゆうめい

< 意味 > 人の生死は天命によって定められたものであって、人の力ではどうすることもできないこと。

< 出典 > 「論語」<顔淵>

「司馬牛憂曰、人皆有兄弟、我獨亡、子夏曰、商聞之矣、死生有命、富貴在天、君子敬而無失、與人恭而有禮、四海之内、皆為兄弟也、君子何患乎無兄弟也、」

読み下し： 司馬牛、憂えて曰わく、人皆な兄弟あり、我れ独り亡し。子夏が曰く、^{しよ}これを聞く、死生命あり、富貴 天に在り。君子は敬して失なく、人と ^{うやうや}恭しくして礼あらば、四海の内は皆な兄弟たり。君子何ぞ兄弟なきを患えんや。

通 釈： [兄の^{かんたい}桓魋が無法もので今にも身を亡ぼしそうであったので、] 司馬牛は悲しんでいった、「人々にはみな兄弟があるのに、わたしだけにはない。」^{しか}子夏はいった。「商（このわたくし）はこういうことを聞いている、『死ぬも生きるもさだめあり、富みも^{たつと}尊さもままならぬ。』と。[あなたの兄さんのことも、しかたがない。] 君子は慎んでおちどなく、人と交わるのにていねいにして礼を守ってゆけば、世界じゅうの人はみな兄弟になる。君子は兄弟がないことなどどうして気にかけることがあろう」

一 言： 死シリーズその1

出典は、NO. 34「四海兄弟」と同じですが、訳注を別の書籍にしてみました。

参考文献： 岩波文庫 金谷治訳注「論語」 三省堂「四字熟語辞典」